



2025年（令和7年）11月28日
第193回藤沢市都市計画審議会
資料3－1

報告事項 1

藤沢市都市マスタープラン改定について

1. これまでの取組経過について

- 1-1. 各種協議会等の開催
- 1-2. 市民意見等の把握



1-1. 各種協議会等の開催

藤沢市都市計画審議会

(本会議)

改定の進捗状況を報告

第185回	2023年11月24日開催	「藤沢市都市マスタープランの改定について」
第188回	2024年 5月28日開催	「現行都市マスタープランの進行管理について」
第190回	2024年11月28日開催	「都市マスタープランの改定に向けた取組みについて」
第191回	2025年 5月28日開催	「都市マスタープラン改定に向けた取組状況について」
第192回	2025年 8月26日開催	「藤沢市都市マスタープランの改定について」
第193回	2025年11月28日開催	「藤沢市都市マスタープラン素案について」

藤沢市都市マスタープラン策定協議会

改定に必要な検討・討議

第 1 回	2024年12月25日開催	「藤沢市都市マスタープラン改定方針（案）について」
第 2 回	2025年 3月31日開催	「都市マスタープランの改定骨格について」
第 3 回	2025年 6月 3日開催	「都市マスタープランたたき台について」
第 4 回	2025年 7月31日開催	「都市マスタープラン素案たたき台について」
第 5 回	2025年10月21日開催	「都市マスタープラン素案（案）について」

藤沢市都市マスタープラン改定庁内調整会議

改定に向けた庁内調整

第 1 回	2024年11月22日開催	「藤沢市都市マスタープラン改定方針（案）について」
第 2 回	2025年 5月 8日開催	「都市マスタープラン改定に向けた検討状況について」
第 2 回	2025年10月27日開催	「これまでの取組経過について」
		「都市マスタープラン改定素案（案）について」 等

1-2. 市民意見等の把握

郷土づくり推進会議 (令和5年度～7年度)

意見交換会の開催

【ねらい】

- ① 地区の課題の抽出
- ② 地域のまちづくりの方向性や取り組むべき事項の把握

団体ヒアリング (令和6年度)

まちづくりに関連する分野毎の市民活動
団体、企業を対象にしたヒアリング

【ねらい】

- ① 活動内容や活動推進上の課題の把握
- ② 今後展開したい活動、まちづくりへのアイデアの把握

ブレスト会議 (令和6・7年度)

団体等及び公募市民による
ワークショップ型の会議

【ねらい】

- ① 市民等が共有できる将来（ビジョン）検討のためのキーワードを抽出
- ② 市民等が期待する取組のイメージを抽出

市民アンケート (令和6・7年度)

地域、年齢別のバランスを考慮した市民を
対象にしたアンケート調査

【ねらい】

- ① 市民の暮らしの実態と期待する暮らしのあり方の把握
- ② 藤沢市のまちの魅力と都市として望む将来像の把握

その他 (令和5年度～7年度)

その他、各種からの意見
＜例＞ 子ども・若者が感じるまちへの意見

【ねらい】

- ① 各種で行った会議やアンケート調査等で得られた意見の把握
- ② 次世代の大人となる今の子どもたちが将来のまちに期待する気持ちを把握

2. 前回都市計画審議会でもいただいた 意見への主な対応について



2. 前回都市計画審議会でもいただいた意見への主な対応について

項目	意見	考え方
スライドP9 都市マスタープランとは 位置づけ	個別計画と分野別計画の定義をどこかにいれるべきでは。 同様に都市づくりとまちづくりという言葉の定義も説明できると良い。	本編P5「藤沢市都市マスタープランの役割と位置づけ」にて記載いたしました。 市の各分野における着実な取組の推進のために定めた 個別計画 都市づくりの方向性をその分野ごとに具体的に定めた 分野別計画 市の都市計画行政や法定都市計画として進めることを 都市づくり 身近な地域や多様な主体とともに進めることを まちづくり としております。
スライドP15 都市ビジョン	「自立するネットワーク都市」のイメージをもう少し分かりやすく伝えるということが重要 また自然を活かしていくことも盛り込めたらよい	本編P12「都市ビジョン」にて整理して記載しました。 自立するネットワーク都市の説明を次のように変更しています。 「つながりたくなる魅力がある都市であること つながることで魅力が高まる都市であること つながりを通じてひとと地球の未来へ貢献する都市であること」 また合わせて、自立するネットワークの意図を説明する文章を加えるとともに、ひと、地域、広域、環境共生の視点で取り組む自立するネットワークの都市について記載を加えました。
スライドP27 都市プラン 活力を創造する都市づくり 本編P100 13地区プラン 遠藤地区	藤沢市はスポーツの推進都市でもあるため計画ではスポーツや健康の記載をしたほうが良い 秋葉台公園の記載に、市民スポーツを支える拠点ということを明記してほしい。	本編P33「活力を創造する都市づくり」(3)活気あふれるまちづくりとして スポーツ振興 に関すること、 P40「美しさに満ちた都市づくり」(3)愛着と誇りを生む魅力を高めるまちづくりとして、スポーツの観点も含む 生涯学習 に関すること、 P96「遠藤地区プラン」の「資源」に 秋葉台公園 が市民スポーツを支える拠点であること と各々記載いたしました。

2. 前回都市計画審議会でもいただいた意見への主な対応について

項目	意見	考え方
スライドP32 都市プラン ひとつつながるまちづくり	「+α ひとつつながるまちづくり」を加えたことについて、市民目線からすると分かりやすく、もっと強力に進めてほしい。	本編P29「0(輪)ひとつつながるまちづくり」に名称を改め、1から6の都市づくりの方針のベースとなる方針として位置づけ、「つながる」「つかう」「みがく」の3つの取組と合わせて図説についてもわかりやすく修正しました。
スライドP45 プロセス 進行管理と見直し	KPIをしっかり設定したほうが良い。 例えば、土地の被覆とか、緑地の量・質について目標を設定できると良い。 都市防災に係る指標には「道路整備率」と「住宅の耐震化率」が挙げられているが、幅広く指標を設定して今後の方向性を考える指針にするほうが良い。	本編115「総合的な指標の設定」の指標の設定項目を見直しました。 指標の例として、 「地球環境に貢献する都市づくり」では、緑被率に関することやエコロジカルネットワークに関すること、 「強さとしなやかさを備えた都市づくり」では、ライフラインの耐震化率を加えています。

3. 前回都市計画審議会からの変更点

- 3-1. 本審議会における諮問に向けた進め方
- 3-2. 前回都市計画審議会からの主な変更点



3-1. 本審議会における諮問に向けた進め方

藤沢市都市計画審議会

改定の進捗状況を報告

第185回	2023年11月24日開催	「藤沢市都市マスタープランの改定について」
第188回	2024年 5月28日開催	「現行都市マスタープランの進行管理について」
第190回	2024年11月28日開催	「都市マスタープランの改定に向けた取組みについて」
第191回	2025年 5月28日開催	「都市マスタープラン改定に向けた取組状況について」
第192回	2025年 8月26日開催	「藤沢市都市マスタープランの改定について」

様々な方々からのご意見を集約・精査検討を行い、素案（案）として取りまとめを実施

第193回 2025年 11月28日開催 「藤沢市都市マスタープランの改定について」
素案（案）として取りまとめたものについて報告

第194回 2026年 2月 19日開催 「藤沢市都市マスタープランの改定について」
(予定) 諮問・答申

3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

検討のための
たたき台から
計画書の形式
へ

計画書としての構成の整理

- ・都市ビジョンをわかりやすく伝える工夫
- ・「つながる」「つかう」「みがく」の構成の整理と図による可視化
- ・章構成の整理

言葉のレベル感の統一

- ・施策レベルは記載せず、計画の方向性を記載
- ・伝わりやすさを高めるための、見出しと項目の整理
- ・主に各事業単独ではなく総合的に取り組むべき内容のものを記載

審議会等でご
意見いただい
た点の修正

各種審議会等での意見に対する対応

- ・都市計画審議会/策定協議会/庁内調整会議/庁内照会

3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

都市マスタープランとは

都市マスタープランの持つ役割や位置づけ、計画の構成等を示しています。

1. 藤沢市都市マスタープランの役割と位置づけ
2. 社会展望
3. 改定の背景
4. 本計画の構成

①都市ビジョンをわかりやすく伝える工夫

I.ビジョン

～都市として目指す姿～

2050年を目標とした都市ビジョンや将来都市構造を示しています。

1. 基本理念
2. 都市ビジョン
3. 都市ビジョンの実現のポイント
4. 将来都市構造
5. 将来フレーム

②「つながる」「つかう」「みがく」の構成の整理と図による可視化

II.プラン

～ビジョンを実現するための方針～

都市づくりを展開する基本方針を示すとともに、13地区におけるきめ細かなまちづくりを進めるための基本方針を示しています。

1. 都市プラン（都市づくりの基本方針）
2. 13地区プラン（まちづくりの基本方針）

③章構成の整理

III.プロセス

～プランを実行する進め方～

多様な主体と連携したまちづくりの進め方を示すとともに、本計画の進行管理やこれからの藤沢都市計画の考え方を示しています。

1. つながる
～まちづくりを通じて共創へ向けた連携体制づくり～
2. つかう ～まちの基盤を活用する仕組み～
3. みがく ～多様な主体とともに進めるまちづくり～
4. 進行管理
5. これからの藤沢都市計画の考え方

巻末資料

本計画に関連する用語や改定の経過をとりまとめています。

1. 用語集
2. 改定の経過

3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

I. ビジョン 2. 都市ビジョン

①都市ビジョンをわかりやすく伝える工夫

たたき台版 (P.10)

都市ビジョン：「自立するネットワーク都市」

つながりたくなる魅力と特性がある都市であること
つながることで、魅力や個性が高まる都市であること
地球との共生に向けスクラムを組んで役割を果たすこと

市民ひとりひとりが自由に交流連携しながら心身ともに健やかで年齢や性別、国籍などにかかわらず誰もがいきいきと暮らせています。

連携によりきめ細かなまちづくりを進め、地域共生社会のもと安心して暮らせ、魅力的で個性ある地域で構成されています。

都市の役割や個性に応じた機能分担により近隣都市と連携しながら、開かれた都市機能の強化を図り、全国や世界ともつながり活

自然環境が暮らしに溶け込み、カーボンニュートラルが回復している、未来を見据えた都市の責務を果たす

藤沢市都市計画審議会

藤沢市都市マスタープラン
策定協議会

意見の内容：

○自立するネットワーク都
市で目指すものがどう
いったものなのかをもう
少し具体的に示したほう
がよい

○重要な構成要素となる自然についても触れたほうが良い

○市民等にわかりやすく伝わるような表現に工夫をしたほうがよい

参考：自立するネットワーク都市の意図について

これまで、本市は、首都圏と広域連携軸によりつながり、自立できるよう、単なる住む場所ではなく、働く、楽しむことができました。

広域連携軸がデジタル技術に代わり、首都圏だけで生まれています。

その中で、本市が個性や魅力をもちつつ、世界とのか
しめます。

素案（案）（P.12）

自立する ネットワーク都市

つながりたくなる魅力がある都市であること
つながることで魅力が高まる都市であること
つながりを通じてひとと地球の未来へ貢献する都市であること

これまで本市は、広域連携のもと、自立できるよう
住むだけでなく、働く、楽しむ、憩う等のために必要な機能を充実してきました

これからは広域連携に加え、デジタル技術の発展や価値観の多様化により
多様な主体や世界へと広がる連携が期待されます

多岐にわたる連携のもと
市内の様々な活動を支え、本市の活力を高めます

そして、次世代の子どもたちに豊かな資源、良好な環境を引き継ぐために
深刻化する地球温暖化等の社会的課題に力を合わせて取り組むことで
これからも自立した持続可能な都市であり続けることを目指します

自立するネットワーク都市では、

ひとは

一人ひとりが自由に交流連携しながら
心身ともに健やかで
年齢や性別、国籍等にかかわらず
誰もがいきいきと暮らせるまちを形成します

地域では

連携によりきめ細かなまちづくりを進め
地域共生社会のもと安心して生活ができる
暮らしが豊かな個性ある地域を形成します

広域における本市では

都市の役割や個性に応じた
機能分担と広域連携により
都市機能の強化を図り
持続的に都市活力を創出し続けます

環境共生に対し本市では

自然環境と暮らしが寄り添って
脱炭素社会が実現し
生物多様性が回復に向かう
未来に貢献します

3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

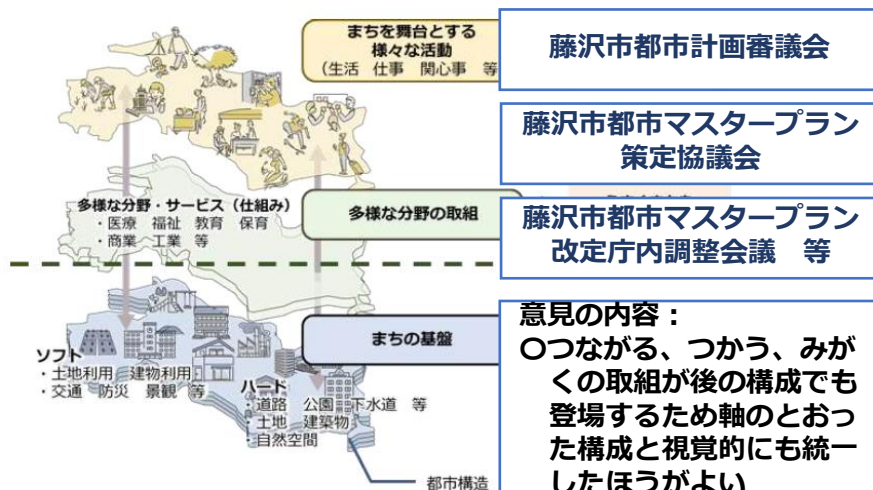
I. ビジョン 3. 都市ビジョンの実現のポイント

たたき台版 (P.11)

都市においては、都市基盤や都市機能等の「まちの基盤」と都市で行われている行政や民間等による「多様な分野の取組」の上で、「まちを舞台とする様々な活動」が行われています。

都市ビジョンの実現には、多様な主体との様々な形での連携によって、共に創ることが重要となります。

これまで整備を進めてきた「まちの基盤」をアップデートしながら磨き続けるとともに、多様な主体や多様な分野との連携により、新たに「多様な分野のサービス・取組」にフォーカスをあて効果的に効率的にうまくまちを使ってもらう視点や、「まちを舞台とする様々な活動」と更につながる・まちづくりにとりこむという視点を強化しながら、都市ビジョンの実現に取り組めます。



また併せて、多様な主体と都市ビジョンを共に「みんなのまちビジョン」として示し取組を

意見の内容：

○つながる、つかう、みがくの取組が後の構成でも登場するため軸のおつた構成と視覚的にも統一したほうがよい

○市民等にわかりやすく伝わるような表現に工夫をしたほうがよい

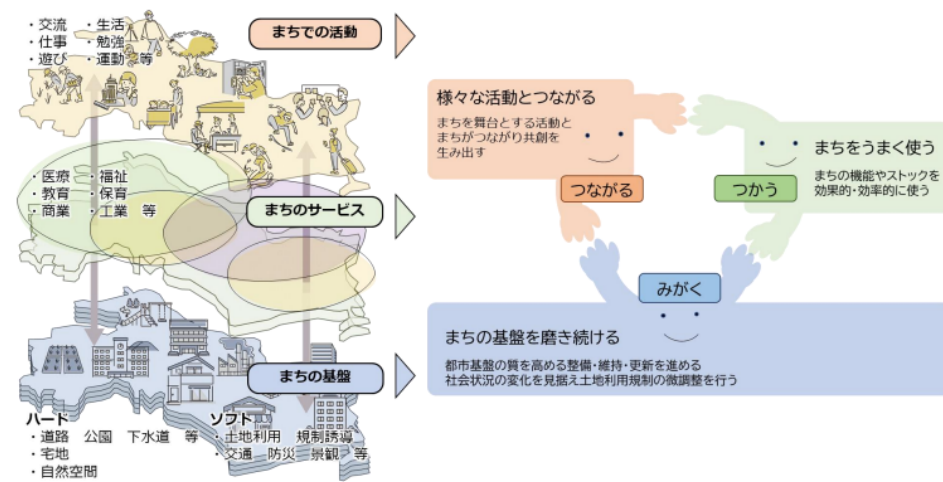
②「つながる」「つかう」「みがく」の構成の整理と図による可視化

素案 (案) (P.13)

市全体で目指す「自立するネットワーク都市」を実現するためには、一人ひとりが思い描く様々な広がりを持つ「まち」を舞台に、多様な主体とともに「まちづくり」を積み重ね、進めていくことが必要となります。

まちでは、都市基盤や都市機能等の「まちの基盤」と、市も含め事業者による医療や福祉、商業等、多様な「まちのサービス」の上で、交流や仕事、遊び等様々な「まちでの活動」が行われています。

これまで整備を進めてきた「まちの基盤」を社会状況の変化を見据え、きめ細かな微調整や維持更新によりまちを磨き続ける（みがく）とともに、「まちでの活動」とつながるという視点（つながる）や、多様な主体や多様な分野との連携により、新たに「まちのサービス」にフォーカスをあてまちをうまく使う視点（つかう）を持ち、「つながる」「つかう」から生まれる新たな価値やアイデアを「みがく」に積極的に取り込み、魅力あるまちの形成を目指します。



都市ビジョンの実現に向けた「つながる」「つかう」「みがく」

そして、「つながる」「つかう」「みがく」の取組から形成していく魅力あるまちのビジョンを「みんなのまちビジョン」として示します。

3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

Ⅱ. プラン 1. 都市プラン

②「つながる」「つかう」「みがく」の構成の整理と図による可視化

たたき台版（P.29）

都市ビジョンを実現するため、これまで築いてきた「まちの基盤」を磨き続けるとともに、市や民間などによる「多様な分野のサービス・取組」において「まちの基盤」をうまく使ってもらい視点と、「まちを舞台とする様々な活動」がまちとつながり、まちづくりにとりこんでいく視点を追加し、持続可能な藤沢のまちづくりを進化させます。

都市づくりの基本方針では、「まちの基盤を磨き続ける」という6つの方針と「様々な活動とつながる・とりこむ」「うまくまちを活用してもらう」という「ひととつながるまちづくり」の方針によりを進めます。

<都市づくりの基本方針の構成>

1. 住みよさを育む都市づくり

13 地区別まちづくりに加え、生活に関わる多分野の施策や地域の多様な活動と連携して、様々な単位でのよりきめ細かで住みよい都市づくりを進めます。

2. 活力を創造する都市づくり

産業の集積や拠点まちづくりに関する施策と連携して、活性化し新たな価値・活力を創出するまちづくりを進めます。

3. 自然と融合する都市づくり

脱炭素社会への転換や気候変動への適応や快適な都市空間を形成する水・緑空間づくりを進めます。

4. 強さとしなやかさを備えた都市づくり

日常的なまちづくりが防災体制の強化や災害による被害を最小限に抑え、すみやかに回復できる都市づくりを進めます。

5. 美しさに満ちた都市づくり

地域ごとの資源を生かした特色ある景観づくりや自然の恵みがある質の高い都市づくりを進めます。

6. 連携と挑戦の都市づくり

広域的な連携を支える都市基盤づくりを取り込み広域的な視点から魅力を発信するまちづくりを進めます。

+a. ひととつながるまちづくり

都市づくりにおいて、ひとを中心にまちをより利用しやすく魅力的な都市づくりを進めます。

藤沢市都市計画審議会

藤沢市都市マスタープラン
策定協議会

藤沢市都市マスタープラン
改定庁内調整会議 等

意見の内容：

〇つながる、つかう、みがくの取組が後の構成でも登場するため軸のおつた構成と視覚的にも統一したほうがよい

〇ひととつながるまちづくりの方針をわかりやすく示すとともに、メッセージを強めてほしい

素案（案）（P.29）

「自立するネットワーク都市」を実現するため、本計画の主要となるテーマごとに設定した次の基本方針により都市づくりを進めます。

0（輪） ひととつながるまちづくり

- 1 住みよさを育む都市づくり
- 2 活力を創造する都市づくり
- 3 地球環境に貢献する都市づくり
- 4 強さとしなやかさを備えた都市づくり
- 5 美しさに満ちた都市づくり
- 6 連携と挑戦の都市づくり

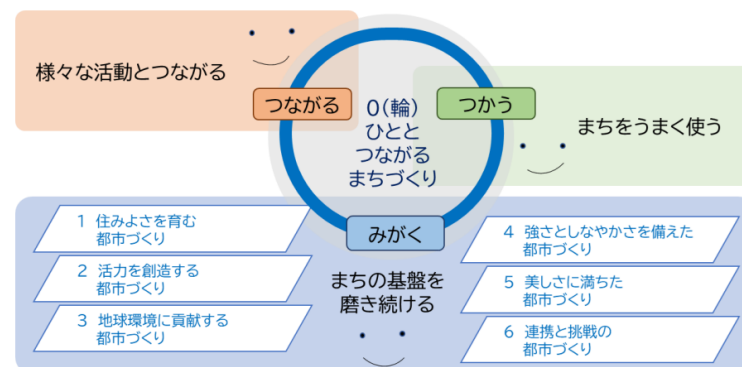
0
(輪)

ひととつながるまちづくり

～活動をまちづくりにとりこみ多様な主体との連携を促進する～

様々な活動がまちと「つながる」、まちをうまく「つかう」から生まれる新たな価値やアイデアを積極的に取り込みながら、また、「ひととつながるまちづくり」をベースとしてまちの基盤を「みがく」1から6までの基本方針をかけ合わせながら都市づくりを進めます。

そのために、「つながる」「つかう」「みがく」の取組から、さらに魅力を高めるまちづくりへ向けて、市民、市内外の事業者、大学や研究者など、本市と多岐にわたって関わる、関わろうとするひとと、手を取りあい連携し「輪」となって、未来へつながるまちづくりを実現していきます。



3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

Ⅲ. プロセス

②「つながる」「つかう」「みがく」の構成の整理と図による可視化

たたき台版 (P.109~)

<プロセス編の構成>

まちの基盤を磨き続ける **都市づくりの基本方針 <6方針>**

様々な活動とつがる・とりこむ
うまくまちを活用してもらう **+α ひとつつながる まちづくり**

1. まちとつながる：多様な主体によるまちづくりの推進

2. まちを使う：効果的で効率的なまちづくりの推進

藤沢市都市計画審議会

3. まちを磨く：主要プロジェクトの推進

藤沢市都市マスタープラン
策定協議会

4. 進行管理と見直し

藤沢市都市マスタープラン
改定庁内調整会議 等

5. これからの藤沢都市計画

意見の内容：

- つながる、つかう、みがく
の取組が後の構成でも
登場するため軸のおつ
た構成と視覚的にも統一
したほうがよい
- 市民等にわかりやすく伝
わるような表現に工夫を
したほうがよい

素案 (案) (P.107~)

まちづくりを通じて
共創に向けた連携体制づくり

つながる

つかう

共創の
まちづくり
プロセス

まちの基盤をうまく
活用する仕組み

みがく

多様な主体とともに進めるまちづくり

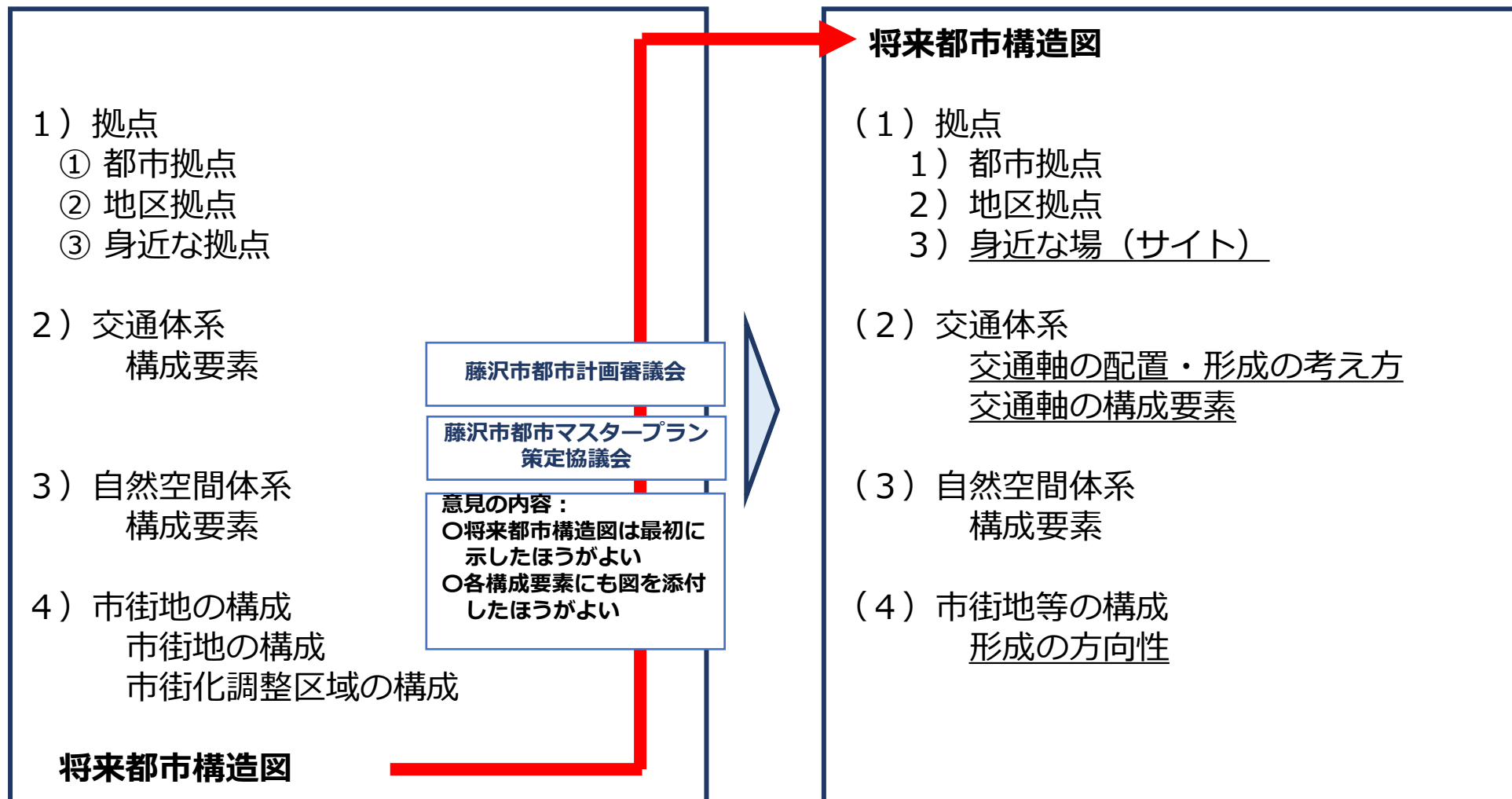
3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

I. ビジョン 4. 将来都市構造

③章構成の整理

たたき台版 (P.15~)

素案 (案) (P.13~)



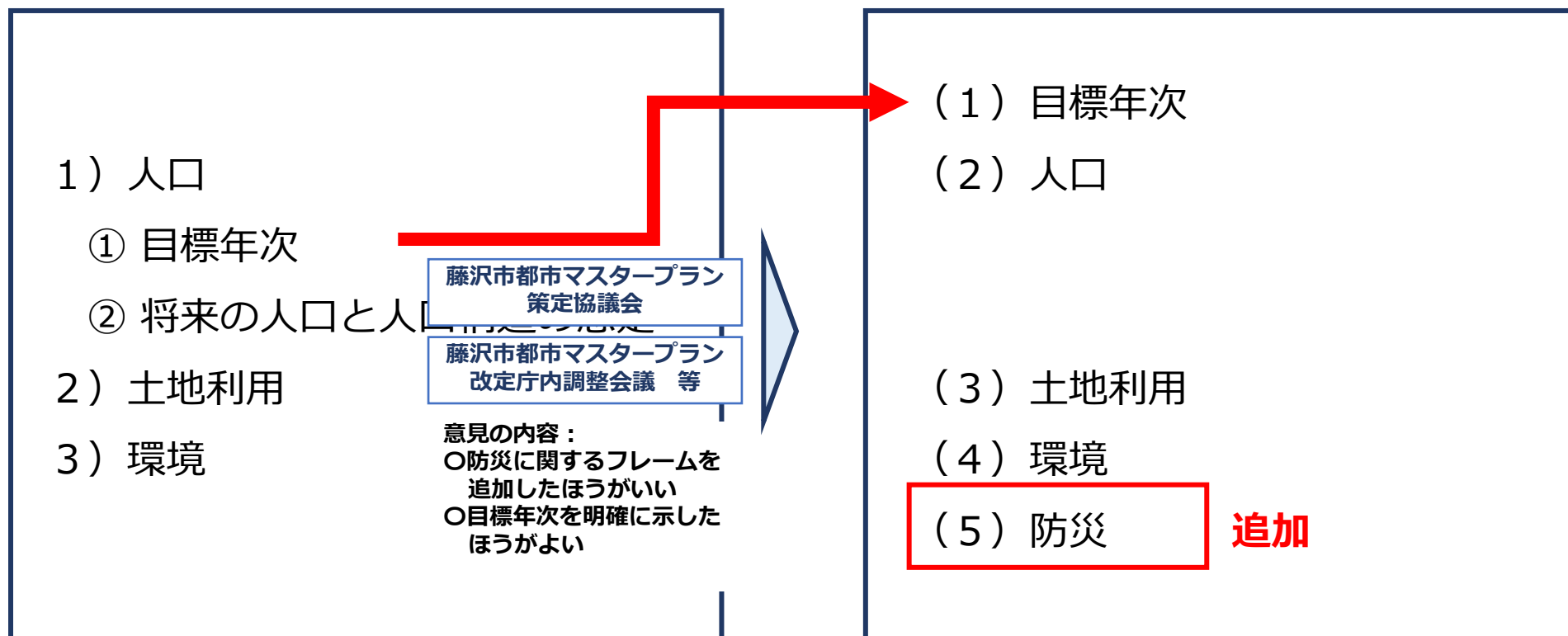
3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

I. ビジョン 5. 将来フレーム

③章構成の整理

たたき台版 (P.24～)

素案 (案) (P.23～)



3-2. 前回都市計画審議会からの変更点

Ⅱ. プラン 2. 13地区プラン

③章構成の整理

たたき台版 (P.50～)

1) 共通方針

① 適切な土地利用の誘導

- (1)住宅系ゾーン
- (2)自然・市街化調整区域のゾーン
- (3)商業・業務系ゾーン
- (4)産業系ゾーン

② 道路・交通基盤の整備

- (1)都市計画道路
- (2)生活道路
- (3)公共交通

③ 防災まちづくりの推進

- (1)地域防災まちづくり
- (2)地震対策
- (3)津波・水害対策
- (4)土砂災害対策

藤沢市都市マスタープラン
策定協議会

意見の内容：

- 共通方針の位置づけを都市プランの同等の記載レベルとしたほうがよい
- 防災に関する記述がばらばらで弱く見えるため都市プランでしっかり記載したほうがよい

→都市プラン4

「強さとしなやかさを備えた都市づくり」
に記載拡充

素案 (案) (P.46～)

基本方針

地区まちづくりの基本方針
～地区まちづくりを支える
まちの基盤の維持・強化～

(1) 地区まちづくりの推進

(2) 全地区共通で進める

地区まちづくりの方針

- 1) 適切な土地利用の誘導
住宅系ゾーン
自然・田園等のゾーン
産業系ゾーン
- 2) 道路・交通基盤の整備
幹線道路
生活道路
公共交通